

ま」の実現に向けて

SDGsを知ろう

SDGsへの関心が高まっている理由

世界では、人口が増え、資源の枯渇や貧困、紛争、そして気候変動や感染症といった課題から、このままでは、安定して住み続けられなくなる可能性があるという状況になっています。

SDGsが目指している未来像

“SDGs”は持続可能な開発目標を意味する「Sustainable Development Goals (サステナブル デベロップメント ゴールズ)」を略して、エスディー・ジーズと呼ばれています。

2030年までに、世界が抱える課題を解決し、誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現のため、2015年の国連サミットで決定した国際社会の共通目標です。「**貧困**」「**エネルギー**」「**気候変動**」など**17の目標と169のターゲット(具体目標)**が示されています。

12. つくる責任、つかう責任

- ・2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。
- ・2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。 などです。

総合計画におけるSDGsの視点でのふくしまの将来像(例) ※福島県総合計画抜粋

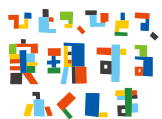
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>すべての人に健康と福祉を</p> <p>●若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている</p> <p>など</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>●水素エネルギーの社会実証が進み、国内外の最先端モデルとなっている</p> <p>など</p>
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>住み続けられるまちづくりを</p> <p>●避難解除等区域における生活環境等の整備や居住人口の増加が進んでいる</p> <p>など</p>

ちよつと一息 身近なことから**第一歩!**

国連広報センターが発行している「**持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド**」についてご紹介します。

- ◆ レベル1は「ソファに寝たままできること」
 - ・請求書がきたら、銀行窓口でなく、オンラインモバイルで支払おう。紙を使わなければ森林を破壊しなくて済む。 など
- ◆ レベル2は「家にいてもできること」
 - ・できるだけ簡易包装の品物を買おう！ など
- ◆ レベル4まであり、日常生活のふとしたことへの気づきにもなります。詳細は右の二次元コードで検索してみてください。

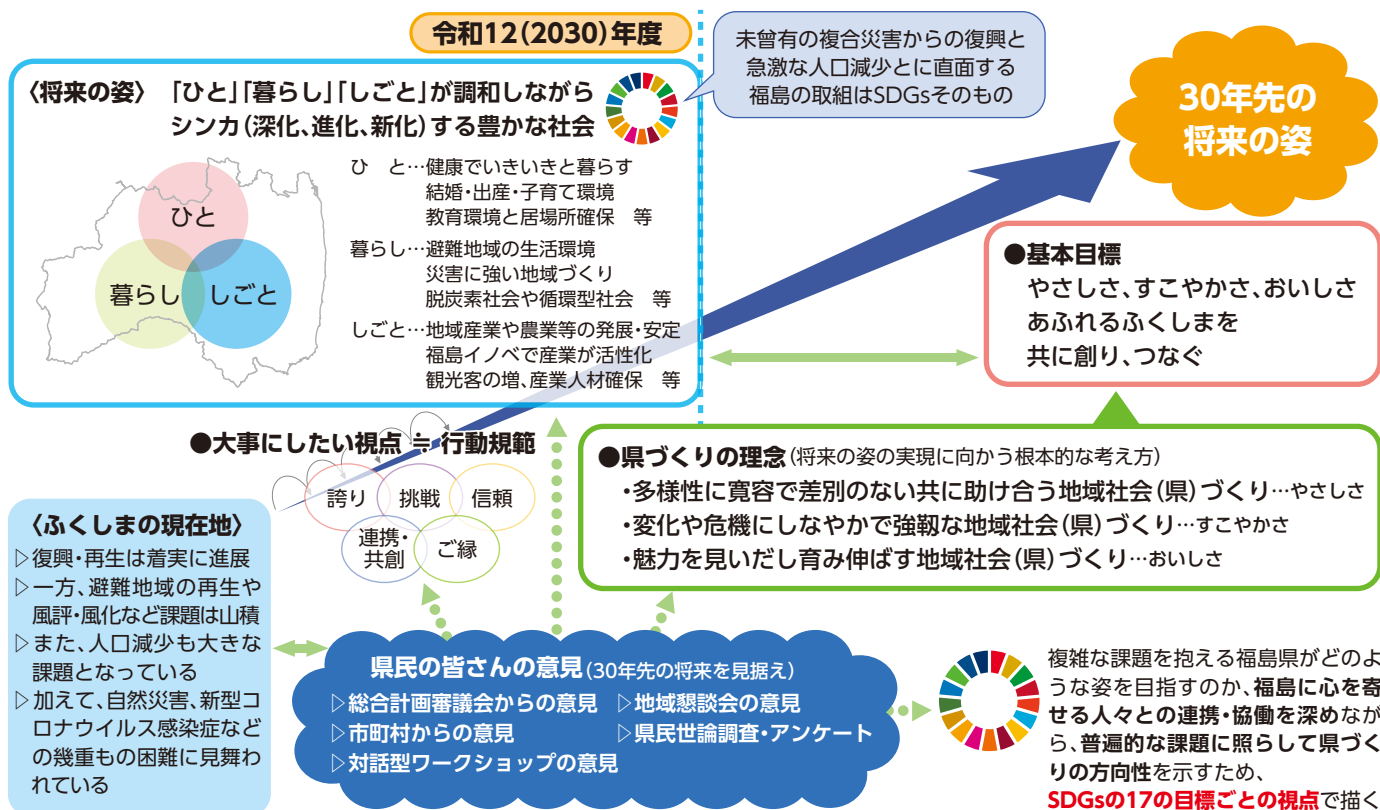
「持続可能なふくし



県総合計画を知ろう

令和4年4月から新しい福島県総合計画がスタートしました。期間は令和4年度から令和12年度の9年間です。県の最上位計画、県政の羅針盤となると同時に、私たちの住む地域がどう変化していくのかといった将来像を示しています。

みんなで創りあげるふくしまの将来の姿



総合計画 豆知識



総合計画をつくるのに、たくさんの方で、いろいろな人の意見を聞いているんだよ。福島県の将来を自分事としてみんなに考えてもらい、「総合計画は自分たちの計画」だと思ってほしいからなんだ。子どもたちの意見もたくさん取り入れられているよ。



基本目標の“おいしさ”は、震災・原発事故後の風評を払拭したいという思いがこめられているんだよ。



将来像は2030年を見据え、復興・再生、人口減少などの地方創生、新型感染症対策に取り組んだ先にある“世代を超えてつながる、ありがたいふくしま”をイメージしているんだよ。



福島県の課題を解決していくことは、SDGsの目標と同じなんだ。そして、みんなが知っているSDGsの視点でみると、身近でわかりやすくなるんだよ。さらに、福島県では18番目の目標として「福島復興」を独自に加えて、みんなに知ってもらい、県内、そして世界に発信したいんだ。



福島県総合計画 子ども版・概要版・全体版

イラストと文章でわかりやすい子ども版、概要版のほか、政策分野別・地域別の主要施策をはじめ、詳細がこちらからご覧いただけます。



イベントレポート

ふくしま SDGs 'SDG!

「ふくしま SDGs 推進プラットフォーム」の活動開始にあわせて、6月13日(月)に上記イベントが福島市内で開催されました。その中から、「世代を超えてつながるSDGs」をテーマとしたトークセッションで登壇した福島県立あさか開成高等学校の取り組みなどをご紹介します。

【箭内さん】

毎月17日を「いいなの日」として学校全体でSDGsを考え、行動する日として活動しています。私は、子ども食堂やフードパントリーなどのイベントに行き、身近にある貧困を痛感しました。そこで、「もったいないイベント」を主催し、机の中に眠っている文房具を集め、必要としている子どもたちに寄附する高校生が主体となって取り組める活動を実現でき、現在、回収を行っています。たくさん子どもたちを笑顔にしたいです。

【大和田さん】

授業で、世界の5人に1人の子どもが栄養不足という現実を知り、一作品を応募すると給食3日分が国連WFPに寄附されるエッセイコンテストを全校生に呼びかけ、参加し、1,236日分の給食を届けることができました。今年もより多くの学校給食支援につながるよう活動します。

【須藤さん】

昨年、障がい者就労支援事業所の方からお話を伺い、所属する読み聞かせボランティア部「オイガ」で、誰にでも分かりやすく見やすい紙芝居を作成しました。また、障がい者の方と一緒にエコバッグづくりや、ピザ窯を作製しました。

昨年の活動がご縁となり、今年の8月にNPO事業所、企業、あさか開成高校の3つの連携によりイベントを行うことになっています。

【國分さん】

学校の水源地である猪苗代湖の水環境保全活動を行っています。水質汚濁の原因となっているヒシ刈りや水草



回収、湖岸清掃のボランティアに参加しました。実際に参加し、ヒシや水草回収などがかなり重労働であり、参加している人の多くは高齢の方が多く、若い人の力不足が課題であると感じました。だからこそ、多くの人の力が必要です。私たちと一緒にふくしまの誇りある猪苗代湖を守っていきましょう。

【最後に】

私たちは、このような活動を通して、「誰かのため」から「一緒に」という大切さに気づくことができました。

一緒に行うことで、多様性、多世代交流から学べる新しい発見を見つけ、SDGsの解決につながるのではないかと思います。

プラットフォームでみんながつながり、福島ならではの連携、協働をし、福島を笑顔にしていきたいです。



左から 箭内さん、大和田さん、須藤さん、國分さん、目時教諭

企業、団体の皆様へ

ふくしま SDGs 推進
プラットフォーム会員募集

ふくしま
SDGs
推進プラットフォーム

会費
無料

会員相互の情報発信・交換、フォーラムへの参加や分科会の開催などできます。ご賛同いただける皆様の入会を心よりお待ちしております。ぜひHPをご覧ください。



知事メッセージ

Message

パートナーシップによる
SDGsの実現に向けて
福島県知事 内堀雅雄



SDGsの17の目標は、持続可能な社会を実現するため、2030年までに、世界中で解決を目指す重要な課題を示しており、私たちがこれから歩むべき「未来への地図」であると思います。

県では、SDGs実現のため、県民の皆さんを始め、本県に思いを寄せてくださる方々とパートナーシップを深めながら、豊かな県づくりを推進するための活動の場として、ふくしまSDGs推進プラットフォームを立ち上げました。

これからも、「持続可能で豊かなふくしま」の実現に向け、SDGsについて共に考え、行動していきましょう。